

H30年度 施設自己評価の結果について(公表) 児童発達支援事業所「ひまわり ひくまの丘」 平成31年2月

職員の自己評価を基に、施設としての自己評価を実施しました。前年度の反省点については、職員全員で振り返り、改善すべき点や課題等を明確な姿勢につなげられるよう、努めてまいりました。今後も、より良い事業所を目指してまいりますので、ご理解ご協力をお願い致します。

	項目	はい	どちらともない	いいえ	工夫している・または改善点
人権への配慮について	職務上知り得た個人情報・家庭環境について外部に漏らしていない。	4	0	0	
	個人的な考えや判断で利用者家族に金品を求めている。	4	0	0	
	子どもに対する育て方や養育方針について、一職員が家族にその個人的な批判を向けるようなことをしていない。	4	0	0	
	保護者からの質問・相談等には丁寧な対応を心がけ、親しさと馴れ馴れしさを混同しないよう、また命令的・決め付け的な発言をしないよう細心の注意を払っている。	4	0	0	
	連絡カード・おたより帳・支援計画書については、言葉使いや言い方等に十分配慮している。	4	0	0	
	利用者や家族に不快を与えることのない様、衣服・頭髪等を整えている。	4	0	0	
家庭支援について	利用児の家庭環境について把握している。	4	0	0	個別に相談にのり、面談などを通して、ご家庭での困りごと等を保護者の方と共有し、具体的な方法を共通理解できるよう努めています。個別に職員が問題を抱えることのないよう、職員全体で共有し解決に向けて努めています。
	家庭での困りごとを定期的に聞いて、適切な助言・支援をおこなっている。	4	0	0	
	家庭での困りごとについて、職員間で共有し適切な対応を考えている。	4	0	0	
	保護者の表情や言動の変化に気づき話しかけている。	4	0	0	
	支援計画に基づき、家庭でできることを保護者と一緒に考えている。	4	0	0	
	家庭の状況等について、関係機関と連携する必要性を理解している。	4	0	0	
	関係機関からの情報について、取り扱いに十分配慮している。	4	0	0	
利用児への対応について	登園時、利用児の服装や衛生、けが、あざ等を発見した際の保護者への対応方法を知っている。	4	0	0	利用児への対応について目的を保護者に伝え、その必要性を伝えるなかで、意見交換しながら行なっています。
	家庭での虐待を疑われる際の他機関への連絡方法を知っている。	4	0	0	
	問題行動の対応に関して、個人的な好みや考え方で対応の仕方が大きく変化しないよう職員間で統一した方針や手段をとるようにしている。	4	0	0	
	常に子どもが施設内でどこにいるのか把握し安全を確認している。	4	0	0	
	クラス担任のみならず、職員全体で日々の療育についてよく話し合い意思統一を図る努力をしている。	4	0	0	
	職員間で連携を図りながら、適切な支援方法を検討している。	4	0	0	
	名前を呼ぶ時は、呼び捨てやニックネームで呼ばない。	4	0	0	
	子どもが明らかに苦痛とを感じるような訓練・学習・指導をしていない。	4	0	0	
乱暴なことばを使ったり、軽蔑したり、からかったりすることをしていない。	4	0	0		
子どもの腕を強く引っぱったり、引きずったり、またいだり、足で動かしたりしていない。	4	0	0		
医療上その他の理由で正規の手続きにより許可された場合を除き、閉じ込めたり、縛ったり、行動を抑制するなどの拘束をしていない。	4	0	0		
職員の勝手な判断で、子どもからの訴えを無視したり、拒否したりしていない。	4	0	0		
開始時間までに、利用児の受け入れ態勢を整えている。	4	0	0		
リスク対応について	緊急対応マニュアルを知っている。	4	0	0	振り返りや、マニュアルの再確認を頻回に行うよう努めています。
	緊急対応マニュアルを目のつくところに置き、対応できるよう心掛けている。	4	0	0	
	事故が発生した場合は、定められた処置と同時に施設長及び保護者への報告を実施している。	4	0	0	
	ヒヤリハット報告書を積極的に記載している。	4	0	0	
	事故やヒヤリハットの報告・原因分析・予防に関する組織的検討を実施している。	4	0	0	
他の職員の不正、不適切な言動を発見した場合は上司へ報告することを知っている。	4	0	0	ヒヤリハットが発生した際、必ず報告・分析の重要性を再確認できる機会を作ります。	
日常の健康管理について	生活調査書や支援計画書により、子どもの普段の健康状態を把握するようにしている。	4	0	0	アレルギーのある子に対し、使用する材料の原材料を明記してある表示を、保護者とともに事前に確認をしています。
	利用開始時に、子どもの体調を顔色・表情・行動の様子・体温などにより確認するようにしている。	4	0	0	
	アレルギーに対し、保護者に事前に確認し、配慮をおこなっている。	4	0	0	

不調時の対応	発熱時には、安静・水分補給・全身状態の観察に努め、保護者に連絡・対処をしている。	4	0	0	感染マニュアルの徹底をしています。          実際に本事業所内で発作に立ち会ったことはありませんが、発作の状況を職員全員が把握するように努めています。
	嘔吐セットの使用方法を理解して処理の仕方を知っている。	4	0	0	
	嘔吐・下痢の際の処理をおこなう際に、部屋の換気をおこなっている。	4	0	0	
	嘔吐時には、顔を横に向かせて静かに休ませて嘔吐がおさまったところで水分の補給を考えて対処をしている。	3	1	0	
	感染症対応研修の手洗い講習を受けたことがある。	4	0	0	
	咳の場合、咳の出し方や頻度をチェックし、原因となる病気や咳に伴う随伴症状を観察し、必要に応じて保護者に連絡をしている。	3	1	0	
	発疹時、発疹の状態を観察し、保護者へ連絡をして必要に応じて受診を勧めている。	4	0	0	
	けいれん発作時、静かに寝かせ、衣服を緩め、嘔吐物や唾液を誤嚥しないよう顔を横向けている。	3	1	0	
	けいれん発作時、発作の様子、状態の観察、記録、発作前の状況、発作の時間などを注意している。	3	1	0	
	支援中に、子どもがケガをした場合切傷・すり傷など皮膚表面の外傷の対処はできている。	4	0	0	
ケガをした際、頭部打撲や強度の腹部圧迫などでは、顔色や意識状態・脈拍などに注意し異常があればすぐに受診を心がけている。	4	0	0		
感染症対策マニュアルに従って感染症対策をおこなっている。	4	0	0		
食事について	食事の時間であることがわかるような環境設定をし、歌やあいさつなどをしてから食事を始めている。	4	0	0	偏食指導等、保護者の意向も確認しながら進めていきます。
	食事中は、楽しい雰囲気づくりに心がけている。	4	0	0	
	食事の時の姿勢は、個々の体の状態に合わせている。(椅子の選択、姿勢保持)	4	0	0	
	日ごろの摂食状況と異なる場合は、体調の変化を考慮し、無理をさせず食事の量を調整して援助している。	4	0	0	
	子どもの食事量・食事形態・摂食機能・食具などについて、日ごろから職員同士(栄養士やリハスタッフも含む)が話し合い、家庭の理解や協力を得ながら、子どもの発達に合わせて食事ができるように心がけている。	4	0	0	
	食事にかかる時間が長くなりすぎないように配慮している。	4	0	0	
	食事前の手洗い・準備・摂食動作(姿勢・適した食具・マナー)・食後の歯磨き・片づけ等出来ることは自分でできるようにし、できそうなことは適切な援助をして、自立を促す関わりをしている。	4	0	0	
	配膳時は特に、テーブル・椅子・食器などの安全と清潔を確認して使用している。	4	0	0	
食事中、落ちたものは口にしないための配慮をしている。	4	0	0		
環境について	採光、照明、換気、室温、などに配慮し、心地よい環境を保っている。	4	0	0	保育室が絨毯敷きであるため、失尿時の処理等、完全に処理していくことが難しい場合がありますが、消毒を充分に行っています。
	保育中に汚れた場合はその都度清掃している。	4	0	0	
	換気や適切な薬品などを使用し、防臭対策がなされている。	4	0	0	
	子どもの気持ちに寄り添い、プライバシーに配慮している。	4	0	0	
排泄について	自立に向けて子どもの状態に合わせて家庭と話し合いながら、紙パンツから布パンツに変更したり、洋式便座・立ち便器等の使用、補助具の使用をおこなっている。	4	0	0	幼児期の排泄の自立の大切さを職員が自覚し、個々の状態に合わせて、スモールステップでスキルが獲得できるよう努めています。家庭での進め方についても、その都度提案をしています。
	失敗しても叱ったりせず、排泄について脅迫観念をもたせないようにしている。	4	0	0	
	自立に向けてなるべく自分でできるようにし、手助けを必要とした時は、適切に援助している。	4	0	0	
	排泄にかかる時間は、長くて5～10分を目安とし、個々の状態に合わせて対応している。	4	0	0	
	姿勢保持の必要な子どもには付き添って行っている。	4	0	0	
	失敗したときは速やかにきれいな衣類と交換し、気持ちよく過ごせるようにしている。	4	0	0	
	汚れたおむつや衣類は速やかに片づけている。	4	0	0	
	汚物の処理が適切に行われている。	4	0	0	
子どもが排泄した後や排泄介助後自身は、しっかりと手洗いをし清潔を保っている。	4	0	0		